

れるつれをこそ願ひつれ、めくらは却て道のさまたげと思へ共、けちえんなりとて同道し、品川に付たり、然に河崎への駄賃、錢出入に付て、才兵衛馬主と問答し、斷やむ事なし、座頭聞て、あらずなき問答哉、河崎迄の駄賃、定りて候程に、われは代物を渡し、馬を取たり、馬方申ごとく、錢を渡し、道を急ぎ給へといふ、才兵衛聞て、座頭めくらなれば、京迄の遠路、駄賃のさし引をば、われに聞ずして、わたす事、不届者なりと云かる、座頭聞て、われはじめての上洛なれば、江戸より京迄の道のつもり、馬次の在所を人によく尋覺えたり、其上一里に付て、代物十六文づゝの定りにてかくれなし、御存知なくば、語りて聞せ申さん、江戸より二里参りて、品川、是より二里半行て、河崎二里、神奈川一里、ほどがや二里、戸塚二里、藤澤三里、平塚一里、大磯四里、小田原四里、箱根四里、三島一里、三枚橋二里、原二里、吉原三里、蒲原一里、由井二里、清見一里、江尻三里、府中一里、鞠子二里、岡部二里、藤杖二里、島田一里、金谷二里、新坂二里、掛河二里、袋井一里、見付三里、濱松三里、前坂一里、荒井一里、白須賀二里、二河二里、吉田二里、御油一里、赤坂二里、富士川二里、岡崎三里、池鯉鮒三里、鳴海一里、宮七里、舟桑名三里、四日市三里、石薬師一里、庄野二里、龜山一里、關地藏二里、坂下二里、土山三里、水口三里、石部三里、草津四里、大津三里、京迄、都合百二十四里なりと云、才兵衛聞て、盲目きどくに道を覺えたるといへば、座頭聞て、此上は京迄、駄賃の指引をば、めくらに御まかせ候得とて、遠路、駄賃の問答もなく、目有人が目くらに教られ、江戸より京迄のぼり付たり、

〔先哲叢談三〕二山義長、字伯養

有警者佐佐木玄信者、善記諸家系譜、而至其不可得詳、則牽合附會以欺世、一日過伯養、談及譜、伯養問曰、荆妻垂水氏也、傳言昔者垂水某者、仕伊勢國司、既失其名、且未知爲何世人、則其跡絕不可考、豈不遺憾哉、玄信曰、此垂水廣信也、廣信稱河内守、伊勢垂水人、初仕其國司、後事後醍醐天皇、諫疏不聽、而去、廣信好學、始奉伊洛說、所著有嘉文亂記六十五卷、嘗勸藤藤房讀朱子集註、事載長濟草、今爲子